

脳血管内治療法普及を

学会が「神戸宣言」発表

日本脳神経血管内治療学会（会長＝吉村紳一・兵庫医科大主任教授）は25日、神戸市中央区の神戸国際展示場で学術総会を開き、脳梗塞患者に対し脳血管内にカテーテル（医療用の細い管）を入れて血の塊（血栓）を除去する治療法の普及を目指す学会宣言を発表した。

脳梗塞治療では、血栓を溶かす治療薬（t-PA）が近年広く使われるようになったが、カテーテル治療も行うことで成績は大きく向上するという。発症から8時間以内は公的医療保険が適用される。

しかし、吉村教授は「治療できる専門医は偏在している」と指摘。



脳梗塞患者の治療成績向上を図る行動計画を発表する吉村紳一・兵庫医科大主任教授＝神戸国際展示場

兵庫県内でも丹波や淡路、播磨・但馬の一部などで専門医不在のエリアがあるという。

総会では、治療できないエリアの調査と公表▽有効性の啓発▽実践への補助―を掲げる

行動計画を「神戸宣言」として公表。吉村主任教授は「脳梗塞患者を救う体制を実現するため、自治体に救急医療での連携などを働き掛

けたい」と話した。

（田中伸明）